

謹賀新年



はたらくあなたへ、笑顔、を届けに
近畿ろうきん



旧年中は当金庫の事業や運動に対しまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

近畿労働金庫滋賀地区本部
本部長 川瀬 美智子 役職員一同

〈ご相談、お申込み等のお問合せは〉

大津支店	大津市におの浜4-5-9	077-524-5356
彦根支店	彦根市大東町4-28彦根勤労福祉会館内	0749-22-2862
草津支店	草津市南草津3-7-1	077-562-5791
八日市支店	東近江市八日市東本町17-8-22	0748-23-2371
長浜支店	長浜市高田町5-21	0749-63-9111
水口支店	甲賀市水口町東名坂277	0748-62-6131

お問合せ時間 月曜～金曜 9:00～17:00 (祝日、12月31日～1月3日は除く)

こみん共済 NEWS
2523Z005



こみん共済 coop 公式キャラクタービットくん (滋賀県)

謹賀新年

旧年中は当会の事業・運動に対してまして、格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

こみん共済〈全労済〉 滋賀推進本部
滋賀県労働者共済生活協同組合

本部長 村田 浩幸 役職員一同

明けましておめでとうございます COOP 滋賀県生活協同組合連合会

滋賀県立大学 生活協同組合	滋賀大学大津地区 生活協同組合	滋賀大学彦根地区 生活協同組合
滋賀医科大学 生活協同組合	滋賀県労働者住宅 生活協同組合	滋賀県労働者共済 生活協同組合
しが健康医療 生活協同組合	生活クラブ 生活協同組合	
滋賀県職員 生活協同組合	クリーンコープしがまる 生活協同組合	生活協同組合 コープしが
賛助会員生協		
立命館 生活協同組合	龍谷大学 生活協同組合	日本労働者協同組合 センター事業団
		生活協同組合 コープ自然派京都



謹賀新年

平素は住宅生協事業にご理解、ご協力を賜り
厚くお礼申し上げます。

本年も相変わらずのご支援とご助力を賜りますよう
よろしくお願い申し上げます。

令和6年
理事長 松元 光彦 役職員一同



土地・建物に関するあらゆるご相談をお受けいたします。
住まいのことなら住宅生協へお気軽にご相談ください。

滋賀県住宅生協 TEL. 077-524-2800



滋賀県知事 (14) 第631号 大津市打出浜2番1号 コラボしが21 6階 <https://www.shiga-jutaku.jp/>

ししが 労福協

No.16

豊かな暮らし

第752号《改題16号》
2024年1月1日発行
発行人 (一社) 滋賀県労働者福祉協議会
専務理事 山本 俊夫
〒520-0806
大津市打出浜2-1 コラボしが21 6階
電話 077-524-6290
FAX 077-523-4070
URL <https://s-rofuku.com/>
E-mail shiga629@aioros.ocn.ne.jp
印刷所 ユメディア株式会社

「寛容の年に」

～共に歩む労働者福祉の充実と
幸福な社会をめざして～

一般社団法人 滋賀県労働者福祉協議会
会長 白木 宏司



皆様、新年あけましておめでとうございます。
皆様にとって輝かしい新年をお迎えできたことを心よりお慶び申し上げます。また、平日頃より滋賀県労福協の活動に対し、会員組織をはじめ県・市町村行政機関など、多くの皆様のご理解とご支援をいただいております。そのことに感謝申し上げます。

昨年は世界的に猛威を振るい社会全体に大きな混乱を招くこととなった新型コロナウイルス感染症も法的分類が5類に引き下げられ、WITH コロナ、アフターコロナ社会へと段階が変わりました。とはいえ、今なお生活困窮に陥る労働者、生活者、学費納入が難しい学生、中小企業の経営危機など、その影響は根強く続いており、コロナ禍が社会の実態を浮き彫りにし、セーフティーネットが脆弱であることも示唆されました。

こうした中で、労働者自主福祉運動の労働者・生活者の福祉向上における役割は大きく、運動領域も変化し、「変えてはいけないもの」「変えなければならないもの」を見極める時期にあります。

昨年のワールドビジネスレポートによると、日本の幸福度は47位となっています。GDPや健康寿命などは世界TOPクラスであるにも関わらず、日本の幸福度が低い理由の一つに他者への寛容さが挙げられます。利他行動や人間関係の質、異なる意見や立場に理解を示す「寛容さ」が、温かな人間関係を築く上で必要ですが、日本ではこの「寛容の無さ」が豊かな幸福感を感じにくいとされています。

私たち勤労者を取り巻く環境も複雑化・多様化し、多くの課題に直面しています。今年は特に「寛容さ」を意識し、より充実した勤労者福祉事業の遂行に努めてまいりたいと考えています。社会的な役割を果たすためには、会員組織を含む皆様からのご意見・ご要望をお聞きしながら、一層の努力を重ねていく所存でございます。

本年が皆様にとってより充実した素晴らしい一年となりますよう、心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。
本年も、人と人のつながりが大切にされ、平和で、安心して働き暮らせる持続可能な社会を目指し、労働組合や事業団体、地域における様々な団体・組織との連携を大切に事業を推進してまいります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。 2024年1月

会長	白木 宏司	事務局長	奥田 修	理事	村田 浩幸
副会長	白崎 直樹	理事	大西 省三		森井 徹
	松元 光彦		池内 正博		救仁郷節夫
	北村賢太郎		清原 勝	監事	伴 幸士
専務理事	山本 俊夫		川瀬美智子		南園 晴司

TOPIC 1 近畿労働金庫滋賀地区本部

働くみなさまを全力で応援していきます!

本部長 川瀬 美智子



新年あけましておめでとうございます。

みなさまには日頃から私どもろうきんに対しましてご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。昨年5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられ、4年ぶりに制限のない日常生活がおくれるようになり、職場や学校、社会にコロナ前の活気が徐々に戻ってきました。

みなさまの職場でも、ろうきんのチラシやティッシュが配れるようになり、執行委員会でお話をさせていただき、アンケートにお答えいただいたり、さらには組合員のみなさまに「資産形成セミナー」や「年金セミナー」等各種セミナーを受けていただいたりすることができました。

今年1月からは、NISA（少額投資非課税制度）が新制度へ移行し、より大きな非課税枠をご利用いただくことができるようになります。資産形成・資産運用についても「金融アドバイザー」であるろうきん職員を頼りにしていただき、いつでもご用命ください。

さて、2024年4月からは、第9次中期経営計画がスタートします。

ろうきんが、「助け合いの輪を広げ、会員・はたらく人びと・地域社会から必要とされる存在であり続ける」ために、会員推進機構と一体となって、地域・労働界を巻き込んだ生活応援運動を展開してまいります。

キャッチフレーズは、「はたらくみんなを全力応援!」

本年もみなさまに寄り添った相談活動を進めお役に立てるよう、福祉金融機関としての社会的役割を果たしていく所存です。

今年も変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、新たに迎えました2024年が希望に満ちた穏やかな年となりますよう心から祈念申し上げます。



TOPIC 2 こくみん共済coop 滋賀推進本部

年頭のごあいさつ

本部長 村田 浩幸



新春のお喜びを申し上げます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。また、日頃より、こくみん共済coop 滋賀推進本部の事業推進活動に格別のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、こくみん共済coop においては、「中期経営政策 2022-25 ～変革と創造～」の2年目として、目指す保障設計活動を協力団体や関係団体、そして組合員の皆さまと一緒に実現していく年度となっております。公式アプリの導入促進とともにこくみんLifeサポートを活用した推進を展開し、「新しいたすけあい」を創造・実践してまいります。それぞれの共済制度の特色を活かし工夫を凝らした推進活動展開も実践しながら、本年4月に予定されている「住まいる共済(火災共済・自然災害共済)」の制度改定にも合わせ、頻発する自然災害に対する防災・減災の取組、無保障者・保障不足者を無くす取組もおこなってまいります。

さらには、継続して取り組んできている、「県立図書館への児童図書寄付」や「7才の交通安全プロジェクトによる『横断旗』の寄贈」など、子どもたちへの健全育成につながる取組を始め、SDGsの行動宣言にもとづいた社会課題についても展開させていただき、共創活動の実践と皆さまへのお役立ち、そして理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」への実現につながればと考えております。

2024年辰年は「陽の気が動いて活力旺盛になって大きく成長し、形もとのう年」だと云われています。それに肖るわけではございませんが、これまでのご支援とご協力に感謝を申し上げ、皆さまとの絆をさらに深めながら、ともに成長していける年になることを願っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



TOPIC 3 滋賀県住宅生協 (滋賀県勤労者住宅生活協同組合)

年頭のご挨拶

理事長 松元 光彦



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は並々ならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍は昨年5月に法律上の取扱いが変更され、ようやく大きな転換点を迎えました。繰り返しの波を受けつつもウィズコロナが多方面に浸透し、緩やかながら社会経済全般に亘って地に足が着き始め、ポストコロナの時代へとステージが変わってきたことを実感した一年でありました。コロナ禍以外にも、軍事衝突、米中覇権争いの激化、脱炭素化への機運の高まりなど、世界が激しく揺さぶられた近年でありました。これら国際的に同時進行した社会変化は、サプライチェーンやエネルギー問題など、様々な世界的事象を引き起こし、結果として各国・各地域は自国主義や資源の安定供給確保への動きなどを顕在化させ、世界分断の潮流を一層加速させてしまったと危惧せざるをえません。各国・地域・世代間、業種・企業や雇用形態での格差など、山積する課題を浮き彫りにした今、労働者自主福祉運動を担う私たち組織の真価が問われているのではないのでしょうか。「ひと」と「ひと」、「ひと」と「地域社会」の絆を紡ぐところから始め、いっそう具体的な取り組みへと進化させるフェーズに入っていくことが労働団体に求められているものと受け止めています。

私たちも労働者福祉協議会に加盟する事業団体の一員として、その責任と役割が少しでも果たせるよう取り組みを進めていきたいと考えます。本年もご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願いいたします。

TOPIC 4 滋賀県生活協同組合連合会

謹賀新年

会長 白石 一夫



新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新年をみなさんとともに迎えられる心よりお慶び申し上げます。

今、世界は気候変動の脅威にさらされており、自然災害の増加や新型コロナウイルス感染症の世界流行は、私たちが克服すべき課題を突き付けています。国際情勢においても、ロシアによるウクライナ侵攻など絶え間ない紛争、格差拡大、飢餓や貧困などの問題も抱え、日本においても格差と貧困、特に子どもの貧困が大きな課題となっており、人口減少、高齢化、地域格差の広がりにより、生活インフラの維持が困難になる地域が増えてきています。

このような社会的な課題は、国や行政の役割発揮を求めるだけでなく、自らが各地域課題としても捉え、県民・市民が参加する事業を通じて暮らしの願いを実現し、社会的な問題解決のために活動し続けてきました。この協同の社会システムの広がり「お互いを認め助け合う」関係を結び付け、笑顔あふれる地域共生社会づくりを実現していく力となると信じています。

厳しい暮らし向きの中でもこの笑顔あふれる地域共生社会づくりを求めて、目的を同じくする諸団体の皆様や行政、事業団体や協同組合間の連携をより一層強化しながら取り組みをすすめ、その可能性を広げていかななくてはならないと思っておりますので、何卒倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

総合企画 編集・印刷 本年も何卒よろしく
お願い申し上げます
代表取締役 東郷 栄司



大津市松本2丁目10-6 連合福祉会館 2F
TEL: 077-527-9221 FAX: 077-527-9222

謹賀新年

耐震性・断熱性・気密性
そして家族の健康
高性能な家づくり

滋賀県労福協事業団体
株式会社 セイキョーホーム
〒522-0002 滋賀県彦根市松原町3651番地31 TEL: 0749-22-0111 Fax: 0749-22-0157

大津地区労働者福祉協議会
会長 救仁郷 節夫



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年よりコロナウイルスによる行動規制が緩和され、少しずつではありますが対面での活動も増え始めました。今後は、活動の内容を見直すとともに、より良い活動への取組を進めさせていただきますので、引き続きのご支援ご協力を、宜しくお願い申し上げます。

湖南甲賀地区労働者福祉協議会
会長 松山 博之



謹んで新年のお慶びを申し上げます

新年あけましておめでとうございます。

旧年は、労福協の活動にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

コロナ禍の制約もなくなり、日常が戻ってきてはおりますが労働者を取り巻く環境は厳しい状況です。その中で少しでも皆様の暮らしのお役に立てるよう活動を進めて参りますのでご協力をお願いいたします。

彦根地区労働者福祉協議会
会長 千秋 章造



新しい時代の幕開け

新年あけましておめでとうございます。

昨年は労働福祉運動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。コロナもウイズコロナからアフターコロナの時代になり新年は本来の活動が取り戻せると確信しております。

働く仲間が安心して充実した生活が送れる様に精力的に活動を進める所存です。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

草津栗東地区労働者福祉協議会
会長 大久保 勝徳



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年は、草津栗東地区労福協の諸活動に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。何かと不自由な日々が続きましたが、労働者福祉協議会に集う仲間とともに、これまで以上の活動を展開したいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

近江八幡地方労働者福祉協議会
会長 中尾 喜享



年初のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

イスラエルによるパレスチナガザ地区への軍事的な攻撃や、いまだ解決の見えないロシアによるウクライナ侵攻など、日本にいる我々にも少なからず経済や、安全保障の不安を感じる日々であります。こんな時だからこそ、労働者として苦楽を共にする仲間が協力し、困難を乗り越える、そんな一年になることを年初に祈りたいと思っております。

湖北地域労働者福祉協議会
会長 池田 晃仁



謹んで新年のお慶びを申し上げます

旧年中は湖北地域労福協の活動に御理解と御協力を賜りしこと厚く御礼申し上げます。

今年もご加入いただいている構成員の皆様との交流、親睦と、助け合いの心を持った活動を展開していく所存でございます。

どうぞ宜しくお願いいたします。構成員皆様とご家族様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

守山野洲地区労働者福祉協議会
会長 北村 賢太郎



地域の未来を創り出し
ていく新時代の幕開け

みなさま、あけましておめでとうございます。

元旦から制約のない新年を迎えることができ、会員みなさまの活動意欲は増しているように伝わってきています。様々な活動手法を手に入れ世代や枠組みを超えての活動が可能となりました。

地域に根差し、これからの未来を考え行動するスタートとなる1年になることを願います。

東近江労働者福祉協議会
会長 桂川 明久



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年は、労福協の活動に、ご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。まだ気を抜けません、コロナ前の生活に戻りつつある中、地域貢献に繋がる労福協の活動が出来ればと思っております。

皆様のご協力宜しくお願い致します。

高島労働者福祉協議会
会長 岡 彰人



「連携」「支え合い」「絆」を深める

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年のコロナ禍で十分な活動が出来ておりませんでした。昨年は独自でボーリング大会を開催する等、労福協として少しずつですが活動を再開しております。社会や地域に役立つ活動や、親交を深める活動を積み重ね、働く仲間の連携・支え合い・地域の絆を深めたいと思っております。

本年も宜しくお願い致します。

くらしサポートセンターしが大津

所長 三添 浩幸



くらしサポートセンターしが大津

くらしサポートセンターしが草津

所長 小栗 博明



くらしサポートセンターしが草津

くらしなんでも相談
～悩みごと・困りごとに応じた相談機関をご案内します～
0120-783-455
1.くらしサポートセンターしが大津 所長 三添 浩幸
2.くらしサポートセンターしが彦根 所長 川端 隆幸
3.くらしサポートセンターしが草津 所長 小栗 博明
4.くらしサポートセンターしが近江八幡 所長 平塚 雄二
本年もどうぞよろしくお願いいたします。 2024年1月

TOPIC 1 中央労福協 第66回総会が開催されました!

2023年11月22日連合会館において、中央労福協第66回定期総会が開催されました。

本総会はHybird方式で開催され、滋賀県労福協からは、代議員として山本専務理事が会場出席、奥田事務局長がWeb出席で参加をしました。



総会冒頭には中央労福協芳野友子会長より、「昨今の物価高の影響は生活者を直撃しており、子ども食堂に代表されるように、地域に寄り添った直接的な支援を行う活動が今後ますます必要とされる。共助の輪の拡大に向け、それぞれの立場で取り組みをすすめていただきたい」「中央労福協としても、行政やこれまで接点の少なかったNPO、若者をはじめとする多様な世代などとの連携・協働に向けて、知恵を絞っていききたい」(※海外出張のためビデオメッセージ)との挨拶がありました。

また、議案審議では、①2022～2023年度活動報告、②2023年度会計決算報告・同会計監査報告・同一般会計収支差額処分(案)、③2024～2025年度活動方針(案)、④2024年度予算(案)の議案が承認されるとともに、⑤役員改選では、2024・2025年度においても引き続き、芳野会長、南部事務局長体制で執行することが承認されました。

滋賀県労福協としても、中央労福協の方針のもと、これまで以上に多様な団体や地域住民との「つなぐ・つながる」を意識し、会員団体や関係団体と連携した活動を推進していくべきであると、改めて認識をした総会となりました。

くらしサポートセンターしが彦根

所長 川端 隆幸



くらしサポートセンターしが彦根

くらしサポートセンターしが近江八幡

所長 平塚 雄二



くらしサポートセンターしが近江八幡

2023年度生活応援セミナー
終活 を考える。
3月7日(木)開催決定!
落語家:桂雀喜(かつらじゃっき)さんをお招きし、楽しく前向きに終活を考えるきっかけとしたいと思います。

TOPIC 2 滋賀県労福協「2023びわ湖クリーンキャンペーン」を実施しました！

1974年より取り組んでいる『びわ湖クリーンキャンペーン』は、“～みんなで守ろう!! かがやくびわ湖～”を合言葉にして、各地区労福協を中心に全県下で活動を展開しています。

実施当初の滋賀県は、琵琶湖に赤潮が発生し、合成洗剤に含まれるリンが起因していることが判明しました。なんとか美しいびわ湖を取り戻そうと、県民による石鹸運動が高まり、1980年7月1日に「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)が施行されました。また、活動を継続する最中の1988年には、年々汚れていく琵琶湖を30年前の美しい湖に戻すため、労働4団体を中心となって『よみがえれ琵琶湖』の署名活動も行いました。34万人の署名を集め県議会に請願提出した署名活動は、県民のみさんに琵琶湖の環境問題を意識付ける機会となっていきました。住民が率先して環境問題に取り組んできたことや、滋賀県が環境先進県として環境政策に



力を入れてきた歴史は、現在のマザーレイクゴールズ (MLGs) に繋がっているのではないのでしょうか。本年度の『びわ湖クリーンキャンペーン』は、開催日が統一できませんでしたが、県下10か所で開催を計画しました(うち、1箇所は雨天による中止)。また、本年度初めての試みとして、全国的に展開されている『海と日本プロジェクト』にも登録し、日本財団様が推進する「CHANGE FOR THE BLUE」(=産官学界が連携して行う海洋ごみ対策プロジェクト)に賛同しての実施となりました。9月23日(土)から9月30日(土)にかけて、県内の地区労福協が主体となり、総数145単組、1,411名が参加し、5145袋分(30ℓ/袋)のゴミを回収することができました。実施した各地区の感想では、「ゴミが従前よりも減っている」ことが、共通した内容でした。様々な団体、行政、学生等組織を超えた県民の環境に対する意識の変化が、このような結果に繋がってきているのかもしれない。ただ、未だにポリタンクやおもちゃ、鉄くず、ホイールキャップといった様々な不法投棄も確認されました。



当キャンペーンも来年で50年を迎えます。少しでも美しい状態でびわ湖を次の世代に引き継ぐことができるように、また大きな輪となって自分事として環境問題を捉えることができるよう、多様な方に参加いただける実施方法等も模索しながら今後も活動を続けていきたいと思ひます。ごみのない豊かな社会をともに目指していきましょう！

TOPIC 3 滋賀県労福協「第38回チャリティゴルフコンペ」を開催しました！

2023年10月25日(水)、晴天に恵まれた絶好のゴルフ日和の中、恒例となりました『第38回滋賀県労福協チャリティゴルフコンペ』を、近江カントリー倶楽部において開催しました。



参加総数は97名となり、20歳代の方や、女性、さらには滋賀県労働福祉事業団体OB会「あしたば会」会員の方々など幅広くご参加をいただきました。

参加者の皆様から寄せられましたチャリティ金 196,541円と、あしたば会からのチャリティ金 10,000円他を併せ、合計 210,000円を10月27日(金)に滋賀県社会福祉協議会に寄附させていただきました。

参加者の皆様、協賛をいただきました関係団体の皆様のご協力に感謝申し上げます。

TOPIC 4 地区労福協「2023福祉強化キャンペーン」～街頭行動～ 県内一斉に実施しました！

本年度の福祉強化キャンペーンは、①ポストコロナ社会を見据え、対面とリモートのベストミックスを追求しながらすそ野を広げる活動を展開すること、②世代を超えてつながり合う新しい取り組みにチャレンジし、労福協運動の存在意義を高めていくことを目的に実施しています。また、全国共通テーマを、1、「労働者福祉運動で、「共助の輪」を地域に広げよう!」2、「生活・就労支援を地域のネットワークで支えよう!」とし、「今こそ、労福協の力を。」を合言葉に掲げ展開しています。

滋賀県労福協では、「つなぐ(役割)」「つながる(運動)」「地域」をキーワードに、労福協活動や事業団体の周知・認知度向上を図るため、各地区労福協やくらしサポートセンターしがを中心に街頭行動を実施しました。本年度は主要駅のみならず、地域の方が足を運びやすいスーパーの一面をお借りしながら実施する地域も見られ、趣向を凝らした内容となりました。地域の方とお話し笑顔が溢れるスタッフの姿や、歩み寄ってお話くださる女性の方、配付物を手にとって興味深く確認してくれる高校生の姿など大変印象深い光景も多くありました。今後も地域の多様な組織や団体、住民の方等とのつながりを広げ、「福祉はひとつ」の精神によって培ったコーディネーターとしての『つなぐ』役割から『つながる』運動へと、主体性をもった新たな創造をもって自主福祉運動を展開していきたいと思ひます。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

その他、福祉強化キャンペーンの一環として実施中の「フードドライブ活動」や、労働者福祉運動の成り立ちやこれから我々が取り組むべき自主福祉運動を確認するために実施した「合同研修会」の様子は、次号にてご報告させていただきます。



TOPIC 5 労働福祉事業団体OB会「あしたば会」2023年度定期総会・懇親会が開催されました！



2023年9月13日(水)、快晴の中、「あしたば会」2023年度定期総会が大津港ターミナル1階の会議室で開催されました。あしたば会会員は、総会開催日現在172名で、そのうち25名の会員が集い、小竹富雄会長より「兎にも角にも厳しい世相、元気で明るく世直しに参画したい」と、力強い開会の挨拶がありました。来賓者を代表し滋賀県労福協の白木宏司会長からの挨拶の後、小竹会長が議事を進行されました。2023年度活動報告・会計報告が承認されたあと、2023年度の事業計画・予算・役員も満場一致で承認されました。

総会後には4年ぶりにミシガンの船上にて懇親会が開催されました。参加者それぞれにコロナ禍を経て久方ぶりの再開を喜び合う姿が大変印象的でした。1時間30分の乗船は、あっという間の時間でしたが、再び春に懇親ができる場を約束され、笑顔が溢れる中すべての行程を終了しました。



TOPIC 6 中部労福協 2023年度研究集会に参加しました！



2023年10月10日～11日、大阪市の「大阪キャッスルホテル」において、中部労福協の2023年度研究集会が開催されました。本年度は、滋賀県からの参加者5名を含む63名が参加しました。

二日間を通して4つの講義<講義①「協同組合・NPOの連携で持続可能な地域社会を(関西大学商学部杉本教授)」、講義②「生活困窮、社会的孤立を支える豊中市社会福祉協議会の取組みから(豊中市社協勝部氏)」、講義③「子ども食堂の新たな挑戦(NPO西成チャイルド・ケア・センター川辺代表)」、講義④「働く人の歴史を未来へ(エル・ライブラリー谷合館長)」>を受けました。



(エル・ライブラリー見学の様子)

中でも豊中市社協の勝部氏による「断らない福祉」の実現に向けて日々奮闘されている講演は特に印象に残っています。行政職員として身を置く私自身が制度の課題を感じて断る福祉の現実を目の当たりにしてきたからです。また、講義③の食堂の枠をとびこえて、みんなで暮らす子どもの居場所「地域の実家」を作るために奮闘されている川辺代表の身銭を切って挑戦される姿も非常に印象的でした。日頃、住民サービスを提供する「助ける側」にいるけれど、人を助けるって何だろうと改めて考えさせられる講演でした。

この講義を受けた翌日、新聞に目を通して見ると、こども家庭庁が来年度から児童虐待防止に向けた新資格「こども家庭ソーシャルワーカー」を創設される旨の記事が掲載されていました。児童虐待件数は、32年連続で過去最多を更新しており、政府による資格の取得支援が、現場で奮闘されている勝部さんや川辺さんの取組の後押しとなり、適切な支援につながることを願ってやみません。最後に、川辺さんが講演中に紹介された、ネパールで33人のパパとして孤児院を運営されている竹中俊さんの活動理念にも強く感銘しました。近く県内でも講演をされるようなので、ぜひ足を運んでみようと思ひます。

(近江八幡地方労福協 事務局長 山田 耕太)

TOPIC 7 滋賀県社会福祉協議会主催「みんなあつまれ!COZY TOWN 子ども食堂フェスタ2023」に参加しました！



2023年10月28日(土)に、アル・プラザ彦根のCOZY TOWNにて、滋賀県社会福祉協議会主催の「みんなあつまれ!COZY TOWN 子ども食堂フェスタ2023」が開催され、滋賀県労福協、彦根地区労福協、湖北地域労福協より計7名のメンバーが運営補助として参加いたしました。このイベントは地域のあたたかな居場所としての子ども食堂の存在や意義を広く知っていただくとともに、子ども同士、子どもと大人等様々な人がつながりあい、子どもを真ん中においた地域づくりをみなさんと共有する機会として、滋賀県内各地で開催されており、彦根市では2回目の開催となります。

会場には、子ども食堂体験コーナーとしてカレーの提供や展示コーナーの他、協力団体による人形劇や縁日、遊びコーナー等が設けられ、来場された約400名の大人や子ども達で大いに賑わいました。特に子ども食堂のカレーは、用意していた100食が早々に品切れとなり、慌てて追加のカレーを用意されるほどの人気ぶりでした。

運営補助として参加し、来場された方々の笑顔や子どもたちの笑い声を見聞きするなかで、改めて助け合い、支えあうことの重要性を認識することができました。今後も「生活の場」である地域の活性化に向けた取り組みを進めてまいります。

(彦根地区労福協 事務局長 村田 朋弥)

